

数字で見る「AI×若者」起業ブームの真実：日米で正反対の労働市場

米国ではAIの普及と新卒就職難が重なり、若者が「消極的選択」としてひとり起業に走る「雇用なきブーム」が起きています。対して日本は、深刻な人手不足（売り手市場）が安定した雇用の受け皿となり、起業への押し出し圧力が極めて弱いという決定的な構造差が存在します。

米国：就職難が加速させる「雇用なき起業ブーム」

雇用を生むのはわずか6%

大半はAIを活用した「ひとり事業（ソロプレナー）」であり、本格的な企業への発展は限定的。

新規事業申請

月58万件

過去最高

雇用創出

就職市場

起業家の3分の2以上が「雇用の乏しさ」を動機に挙げる
AIによる職の代替が進み、若者が就職市場から「押し出された」結果の必要に迫られた起業。

日本：安定就職が吸収する「起業へのエネルギー」

安定した雇用

大卒求人倍率1.66倍

売り手市場

安定した雇用の受け皿がある日本では、リスクを取って起業する圧力が働きにくい。

起業活動

起業活動率は米国の3分の1以下

開業率も3～4%台で長期低迷しており、米国のような爆発的な波及は見られない。

日米の労働市場と起業環境の決定的な非対称性

 米国

19% (史上最高)

起業活動率 (TEA)

就職難 (大卒失業率5.6%)

若者の就職環境

製造業回帰の一方で縮小

人手不足の状況

 日本

6.1%

売り手市場 (求人倍率1.66倍)

建設・物流・介護で深刻

Z世代の创业者の71%
がAIを起業に活用

2023年の21%から急増しており、AIが
起業コストを劇的に下げたことが背景。



挑戦志向と自己効力感が
国際的に見て最下位

失敗への恐れが強く、社会を変えられると
信じる若者が3割未満と極めて低い。